

小学校での
一日の生活



5歳児の発達の特徴

子どもの発達は、どの子にも同じスピードで起こるのではなく、個人差が大きいという点を認識しておくことも大切です。

自分の思いや気持ちを表現しあうようになってくる

5歳代には、集団でのルールに従って生活ができたり、集団での遊びが盛り上がってきます。友達との言葉のやりとりができるようになり、自分の思いや気持ちを表現しあうようになってきます。



見通しや計画を立て、実行できるようになってくる

5歳児の後半には、少し先の行事への見通しや計画を立て、実行できるようになってきます。準備、練習、制作活動で友達と協力し合い、それによって自分一人では達成困難なことでもできるようになります。



ルールを守ることのよさや、役割の意義がわかってくる

生活のルールを守ることによって、気持ちよく過ごす心地よさがわかり始めます。当番活動やグループ活動を責任もってやろうとしたり、やる意義がわかってきます。



時間の概念がしっかりしてくる

保育者が指示をしなくても、今日は何をするのかかわかり、時間の概念がしっかりしてきます。(十進法を理解しているのではなく、長針・短針の数字を目安にしています)



身の周りの自立が進む

身の周りの自立が進み、起床・着脱・排泄・洗面などが、自分でできるようになってきます。



道順を理解できるようになってくる

自分の家から園までの道順を絵に描いて教えてと求められると、出発点と目的地だけでなく、その間の知っている手がかりを描き込み、途中にあるものや登園の時の経験を話すことができます。



できたことを報告し、承認をもとめてくる

自分のしたいことを場面に応じてしようとし、そのことを報告し承認を求めてきます。その努力を誉めてもらえることは大きな喜びになります。



学ぶことに興味をもつようになる

読、書、算を学ぶことに興味を持ち、ひらがなを読んだり、名前をひらがなで書いたり、学校に行くことに大きな期待を持ちます。



参考図書 『発達がわかれば子どもがみえる』(田中真介/ぎょうせい/2009年)

5歳児・・・就学に向けてのかかわりと配慮

- ◎ 就学に向けて、早寝早起きの習慣を付け、生活リズムを見直していきましょう。また、食事のマナー、着脱、清潔など生活の仕方の見直しをします。自分のカバンは自分でもつ、ハンカチやティッシュを持ってくるなど、身の回りのことが自発的にできるように働きかけます。
しかし、いずれも表面的な行動が出来ているかどうかを評定するのではなく、そのもとになる発達力が育っているかどうかを丁寧に見て、援助していきましょう。
- ◎ 「こうしないと学校には入れない」とか、入学するために否定的な条件を作ってしまうような配慮が必要です。どんな小さなことでも「学校に入ったら、こんなことを勉強するから楽しそうだね」といった、期待を込めた励ましをしたいものです。
- ◎ 入学に不安を持っている子どもには、気持ちを受けとめ、楽しい面なども具体的に伝えながら、期待感につなげるように援助します。
- ◎ 言葉で自分の意思を相手に伝えられるよう、生活の中で会話の機会を多くしていきます。

